昭和40年度　立命館大学入学試験

〔法・経済・経営・産業社会・文学部〕

受験に関する注意書

2月21日（日）

1. 毎時限予鈴と同時に試験問題用紙を伏せて配布するから、指示のあるまで伏せておくこと。
2. 毎時限本鈴と同時に監督者が配布した用紙の枚数を、板書又は口頭で伝達するから、配布された用紙の枚数を確認すること。（各科目とも試験問題と答案用紙が別々になつています）
3. 枠の中に字を入れる問題の場合、句読点は字数の内に数えない。
4. 第1時限……「社数科」の選択方法は下記の通りである。

   法学部・経済学部／産業社会学部・文学部 ＝＝「社会」・「日本史」・「世界史」・「人文地理」「数学Ⅰ」の5科目から自由に1科目を選択すること。（二科目以上を選択してはならない）

   経営学部 ＝＝「社会」・「日本史」・「世界史」・「人文地理」「数学Ⅰ」・「商業簿記」の6科目から自由に1科目を選択すること。

   配布された答案用紙の中から選択した1科目だけの答案用紙を取り出し解答すること選択しない科目の答案用紙は監督者が40分後（午前10時55分）に回収するから机の上の通路側に伏せておくこと。
5. 第2時限……「英語」は必須科目であるから全部解答すること。
6. 第3時限……「国語」の解答方法は下記の通りです。

   法学部・経済学部／経営学部・産業社会学部 ＝＝試験問題の中の漢文を除き全部解答すること。（漢文を選択することはできない。）

   文学部 ＝＝試験問題の中の漢文を含め随意に選択することができる。
7. 答案用紙（選択した科目および必須科目）の1枚ごとに、受験票に記載してある学部名（文学部は第一志望の専攻まで）、1・2部別（昼夜別）、受験番号、氏名を明確に記入すること。記入を忘れた場合は無効とする。
8. 毎時限とも本鈴から60分経過後（第1時限は午前11時15分、第2時限は午後2時、第3時限は午後3時50分）退場して差支えありません。なお、退場の際には、答案用紙を伏せて静かに退場すること。（試験問題用紙、答案用紙、下書用紙は持ち帰らないこと。）
9. 第2時限以後の遅刻は認めないから、予鈴の時刻（第2時限は午後0時55分、第3時限は午後2時45分）には着席し終ること。
10. 「受験票」は第3時限の試験中に回収する。
11. この「受験に関する注意書」は受験中に見てはならない。
12. 「仮受験票」で受験した者は、正規の「受験票」を入学試験事務室へ郵送又は持参すること。
13. 退場する際は、答案用紙は問題用紙や下書用紙と重ねずに、別にし、ページ順に揃え裏向けて机の上に置くこと。

昭和40年度　立命館大学入学試験

〔理工学部〕

受験に関する注意書

2月21日（日）

1. 毎時限予鈴と同時に試験問題用紙を伏せて配布するから、指示のあるまで伏せておくこと。
2. 毎時限本鈴と同時に監督者が配布した用紙の枚数を、板書又は口頭で伝達するから、配布された用紙の枚数を確認すること。
3. 枠の中に字を入れる問題の場合、句読点は字数の内に数えない。
4. 第1時限…「数学」は必須科目であるから全部解答すること。
5. 第2時限…「英語」は必須科目であるから全部解答すること。
6. 第3時限…「物理」・「化学」は共に必須科目であるから全部解答すること。
7. 答案用紙の1枚ごとに、受験票に記載してある、学部名、学科名、1・2部別（昼夜別）、受験番号、氏名を明確に記入すること。記入を忘れた場合は無効とする。
8. 毎時限とも本鈴から60分経過後（第1時限は午前11時15分、第2時限は午後2時、第3時限は午後3時50分）退場して差支えありません。なお、退場の際には答案用紙を伏せて静かに退場すること。（答案用紙、下書用紙は持ち帰らないこと。）
9. 第2時限以後の遅刻は認めないから、予鈴の時刻（第2時限は午後0時55分、第3時限は午後2時45分）には着席し終ること。
10. 「受験票」は第3時限の試験中に回収する。
11. この「受験に関する注意書」は受験中に見てはならない。
12. 「仮受験票」で受験した者は、正規の「受験票」を入学試験事務室へ郵送又は持参すること。
13. 退場する際は、答案用紙は問題用紙や下書用紙と重ねずに、別にし、ページ順に揃え裏向けて机の上に置くこと。